

別表第1 (第5条関係)

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	伝承館 管理運営事業			
担当課係名	角館榊細工伝承館 課	- 係	作成者	柏谷 真一
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点の町		総合計画のページ 29
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし		
	主要施策	観光客受入体制の整備		
予算費目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	5 目 伝承館費
事業期間	平成 年度 ~ 平成 年度	新規/継続の区分		継続
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input checked="" type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	仙北市立角館榊細工伝承館並びにふるさとセンター			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市民、市内外の小・中・高校生、一般観覧者
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	仙北市民の歴史・文化・伝統工芸への幅広い理解を得られるよう支援することを使命とする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	①年6回の特別展の実施 ②総合学習等を支援する教育普及活動 ③文化財の調査研究 ④歴史資料等の収集保管 ⑤館内外の環境整備の充実

【事務事業の推移】

		項 目	単位	23年度実績		
効果	活動指標	開館総時間	目標	時間	2,880	
			実績	時間	2,889	
			達成度	%	100.3%	
	成果指標	入館者数	目標	人	47,150	
			実績	人	31,920	
			達成度	%	67.7%	
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)		
	事業費(人件費を除く)(A)			18,704		
	人 件 費 (B)		—	18,654		
	職 員 数		—	2.20		
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479		
	(A) + (B) 投下コスト		—	37,358		
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0	
		県 支 出 金			0	
		地 方 債			0	
		そ の 他			9,320	
		一 般 財 源			28,038	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	12,931		
	市民1人当たりのコスト(円)		—	1,255		

【事務事業の今までの成果】

昭和53年9月開館以来、延べ入館者数405万人余り、延べ入館料9億8,608万円余りとなっている。また、館蔵品は、購入作品757点・寄贈品2,006点で、合計2,763点となっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	一部で、指定管理者制度の導入もみられる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	研修室の貸出しを行なっているが、公民館教室や事業・交流センターと同様の貸出しを求める市民団体が年ごとに増えており、施設本来の目的以外の貸出しが求められてきている。観光客の公衆トイレとしての利用が多い。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	平成23年度は東日本大震災発生直後という社会的要因もあり、入館者数の落ち込みによる収入減は、やむを得ないと考えられる。武家資料等については弘道書院が建設された際、関係収蔵品を異動することにより、樺細作品の展示や、仙北市の民芸の展示を今以上に幅広く行なうことができると考えられる。観光ランドマークであること。樺細工をはじめ、仙北市の文化や歴史を後世に伝承するという施設の意義からも、存続の必要性・有効性は大きいと考える。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	市内外の観覧者に対し、これまでの市の歴史・文化・伝統工芸を理解していただくことは大切な事業であると考えます。また後世に文化や歴史等を伝承してもらいたいことから、継続実施と考えます。

